

赤ひげ先生 奮闘記!

Vol.32

大阪・京橋の地で長年、住民の健康をサポートしてきた泉岡利於先生に「かかりつけ医」としてのモットーをうかがいました。



PROFILE

泉岡医院院長(大阪府)

泉岡利於先生

いずおかとしお 1989年関西医科大学卒業。大阪府済生会野江病院循環器内科、関西医科大学附属病院心臓血管病センターを経て、蒼生病院内科部長。2000年10月泉岡医院を父親より継承。大阪府内科医会副会長、都島区医師会副会長を務める。



大阪市北東部の玄関口となる京橋駅から徒歩10分ほどの距離にある泉岡医院。内科・循環器内科・小児科・放射線科がある。

Private column
プライベートコラム

趣味の料理で気分転換!

泉岡先生の趣味の一つは「料理」。時間がある時に家族の食事を用意することもあるそうで、シチューや手まり寿司などレパートリーは豊富です。中でもこだわりは、土鍋で炊くごはん、自分で収穫した実から作るちりめん山椒。「手料理は家族にも好評で、自分のストレス解消にも一役買っています」。



患者さんやその家族に
末永く寄り添う
かかりつけ医を目指しています。

かかりつけ医として 丁寧な治療を積み重ねる

泉岡医院は泉岡先生の父親である先代院長が1960年に開業して以来、地域に根ざした医療を提供してきました。病院勤務を経て、約20年前から同院の診療に携わる泉岡先生は「長年、父を慕う患者さんが口々に『先生は私の体のことを何でも知ってる』と言うのを聞き、これがかかりつけ医の役目だと実感しました」と振り返ります。

専門の循環器疾患だけでなく、子どもから高齢者まで幅広い疾患に対応することが求められるかかりつけ医。「やるべき治療を丁寧に、かつ地道に積み重ねていくことがモットー」と話す泉岡先生は、日頃から勉強会に参加するなど、様々な疾患や治療に対する知識を深める努力を今も欠かしません。

さらに、医師同士のネットワークづくりにも力を入れ、週1回、小児科と糖尿病の専門医を招いての診療を行う他、心臓疾患などを調べる検査機器の充実や電子カルテの導入を通じて、一人ひとりの病歴や病態を迅速に把握。スムーズな治療を実現してきました。



待合室には泉岡先生のお母様が手がけたブリーズアップフラワーが置かれ、彩りを添えている。

2025年問題を見据えた地域医療を目指す
日々の診療では、患者さんとのコミュニケーションを密にして、家族の健康についての相談も積極的に受けているそうです。中でも重視する生活習慣病対策では、子どもの受診に付き添う親世代を中心に、早期の生活習慣改善を啓発。心筋梗塞などの予防につなげています。

また、本人や家族の希望があれば、往診や自宅での看取りをすることもあると言います。「患者さんの人生に寄り添い、その家族の健康まで診るのが使命。困った時に気軽に相談していただけのような存在でありたいです」。団塊世代が後期高齢者になるなど、高齢化がさらに深刻化する2025年問題を目前に控え、「かかりつけ医として何ができるかをいつも考えています。医師会の活動を通じて、地域ぐるみによる在宅診療の体制づくりにも力を注ぎ、最期まで心ある医療ができる環境を整えられるよう、尽くしたい」と力強く語ってくださいました。